

負荷心筋シンチ (RI 検査) を受けられる方へ

RI 検査とは

RI 検査はガンマ線と言う放射線を放出する放射性同位元素を含んだ薬を注射して、臓器や病変部に取り込まれた薬から出されるガンマ線を、体外のカメラで撮影して身体の内部の様子を調べる検査です。

使用される放射性物質はきわめて微量で、かつ半減期が短いものが使われますので、健康に対する心配は全くありません。

1. 負荷心筋シンチとは

本試験は心臓の血流状態の把握、循環器疾患の重症度及び予後の推定、治療効果の判定、不整脈評価などの目的で重要な検査であり、下記に示す禁忌を除いて必要不可欠な検査です。

2. 禁忌事項

- 薬物治療によっても安定しない不安定狭心症（急性冠症候群）
- ペースメーカー治療の行われていないⅡ度以上の房室ブロックや洞不全症候群
- 洞性徐脈（HR < 40/min、相対禁忌）
- QT 延長症候群
- 低血圧（収縮期血圧 < 90mmHg）
- 代償不全状態の心不全
- アデノシン、ATP、ジビリダモールに対する過敏症の既往症例
- 喘息等の気管支痙攣性肺疾患ないしその既往のある患者あるいはその疑いのある患者

3. 検査方法とその内容

- 検査前日の夜9時から検査終了までカフェインを控えて下さい。それ以外は普通に食事をして頂いて結構です。
(カフェインが含まれる飲料水や食物とは)
(コーヒー、紅茶、ココア、日本茶、中国茶、コーラ、チョコレート、栄養ドリンク)
- 検査時間の30分前に当院にお越し下さい。
- 薬を注射します。
放射線科・RI室にて、ベッドに寝てもらい心電図をとりながら負荷をかけるための薬と放射性医薬品を注射します。
約10分かかります。
- 撮影をします（負荷時）
検査用のベッドに移っていただき撮影します。撮影は約20分です。
- 2回目の薬を注射します。
- しばらく休憩します。
- 2回目の検査を行います。
検査用のベッドに移っていただき撮影します。負荷時と同様です。
- 検査開始から終了まで3～4時間かかります。

4. 検査に伴う危険性、合併症

合併症の発生率は患者様の背景によって異なりますが、ほてり感、胸痛、呼吸困難、めまい感、そのほか軽微な副作用を含めると80%に合併します。しかし、ほとんどは経過観察ないし投与中止で速やかに消失します。

そのほか、重度の合併症の発生に対し各種薬物や酸素、吸引などの準備はされています。

(稀ですが上記以外で起こりうる合併症)

徐脈性不整脈、心筋梗塞、心不全、低血圧、ショック

5. 検査のキャンセル

放射性検査薬は半減期が短いため、検査ごとに予約発注されて検査当日病院に届けられます。保存が利かない上、とても高価な薬品ですので、安易にキャンセルされないようお願い致します。

*検査をキャンセルされる場合は、神戸掖済会病院 地域医療連携室（TEL 078 - 781 - 1411）にご連絡下さい。